

3. 学術談話会の活動

(1) 物性談話会

東海地区における物性物理学研究者の定期的な討論の場として、昭和 38 年 6 月にスタートした。現在約 70 名の会員を擁し、事務連絡費として年 1000 円程度の会費を徴収している。事務局は名古屋大学工学研究科応用物理学専攻事務室におかれ、平成 10 年以降は折原宏（現北大教授）、守友浩（現筑波大教授）、田仲由喜夫（名大准教授）の諸氏が世話人として豊田理研との連絡を担当してきた。

豊田理研は共催の立場で、講師旅費・講演謝礼をあわせて年 8 件、40 万円（1 件 5 万円）の補助を行っている。なお、各年度の講師は名大側が候補者を推薦し、豊田理研理事会で承認されてはじめて講師招聘の手続きができることになっている。

平成 12 年 10 月には 250 回を記念して特別講演会を挙行了した。また最近では平成 21 年 12 月には第 324 回物性談話会を行った。この間、秋光純教授（青山学院大、専門：超伝導）、安藤恒也教授（東京工大理工学研究科、専門：半導体理論）、永長直人教授（東大工学系研究科、専門：物性理論）等著名な研究者を招聘した。また、名大キャンパスの外に出て、広く聴衆を集める努力もなされており、平成 19 年度、21 年度各 1 回名古屋工大で物性談話会を開催した。いずれの談話会においても、参加者の多寡によらず、極めて専門性の高い講演・討論が行われている。

国立大学の法人化にともない予算方式が変わり、各大学で非常勤講師招聘の資金の確保が困難になっているようであるが、物性談話会講師の招聘は研究機関間の交流、大学院生の教育に役立っている面もあり、極めて大きな成果が得られている。

田 仲 由 喜 夫（名古屋大学准教授）

石 橋 善 弘（豊田理化学研究所理事）

[表] 最近10年の物性談話会の講演題目リスト

回	開催日	題 目	講演者	講演者所属 (当時)
255	H13. 3. 9	PSEUDO-GAP IN QUASICRYSTALS: A KEY TO UNDERSTAND THEIR STABILITY AND PROPERTIES	Jean-Marie DUBOIS	フランス国立 (NANCY)
256	H13. 5.28	メソスケールでの物質系のモデル化 —ポリペプチドなどを例として—	大野 克 嗣	イリノイ大学 (UIUC), 慶應義塾大学
257	H13. 6. 1	ポリマーゲルと界面活性剤 —その相互差長とハイブリッド材料—	辻 井 薫	海洋科学技術センター
258	H13. 6. 7	Edge Radiation: main features, experimental data and possible applications	N. V. Smolyakov	広島大学放射光科学研究センター
259	H13. 7.27	The lipid organization in the skin barrier	Joke A. Bouwstra	Leiden University, Gorlaeus Laboratory
260	H13. 7.18	遷移金属化合物における電荷と磁性 —バンド計算からのアプローチ—	浜 田 典 昭	東京理科大学
261	H13.12. 5	高温超伝導接合技術と超伝導物理研究への応用	井 口 家 成	東京工業大学
262	H14. 1.17	Ferroelectric Memories	J. F. Scott	Cambridge University
263	H14. 3.22	YBCO/LSMO 接合における異常	柏 谷 聡	産総研エレクトロニクス領域 低温物理グループ
264	H14. 6. 7	放射光蛍光 X 線分析法を用いた魚類硬組織中の微量元素分析	吉 富 友 恭	自然共生研究センター
265	H14. 6.26	遷移金属酸化物における電荷整列と物性	勝 藤 拓 郎	早稲田大学
266	H14. 7.29	複雑流体の粘弾性相分離現象	田 中 肇	東京大学生産技術研究所
267		中止		
268	H14. 9.24	ルテニウム酸化物のスピントリプル超伝導	前 野 悦 輝	京都大学国際融合創造センター
269	H14.11.25	お金の流れの物理法則 —非線形性と相転移の視点から経済を見る—	高 安 秀 樹	ソニーコンピューターサイエンス研究所
270	H14.12. 9	THz 時間領域分光法による物性研究 —フォトリソニック結晶とフォノン・ポラリトン—	武 田 三 男	信州大学
271	H15. 1.16	遷移金属酸化物における相分離状態と強磁性マイクロ領域	森 茂 夫	大阪府立大学
272	H15. 1.28	材料開発から電子デバイスの新展開に向けて	鳥 海 明	東京大学
273	H15. 5. 9	インクジェット印刷法によるポリマー TFT の作製	川 瀬 健 夫	セイコーエプソン (株) テクノロジープラットフォーム研究所
274	H15. 6. 5	SPring-8 における理研の構造生物学研究	城 宣 嗣	理化学研究所
275	H15. 6.16	高分子メソフェイズの構造形成	太 田 隆 夫	広島大学
276	H15. 7.22	相関の強い電子系の超伝導	山 田 耕 作	京都大学
277	H15.10.22	金属錯体における光誘起相転移のダイナミクス —計算機シミュレーションによるアプローチ—	川 本 徹	産業技術総合研究所ナノテクノロジー研究部門
278	H15.12.16	超伝導のフロンティアスピントリプル超伝導—	北 岡 良 雄	大阪大学
279	H16. 1.19	微細 Si トランジスタ高速化のためのチャンネルエンジニアリングと素子物理	高 木 信 一	東京大学
280	H16. 2.13	微小球によるメゾスコピック光学	五 神 真	東京大学大学院量子エレクトロニクス研究センター

回	開催日	題 目	講演者	講演者所属 (当時)
281	H16. 5.25	Polarization Phenomena in Ferroelectrics at the Nanoscale	A. Gruverman	ノースカロライナ大学
282	H16. 7. 7	Dynamics of Magnetic Nanostructures	G. E. W. Bauer	デルフト工科大学
283	H16. 8. 3	新しい物理教育実験	富 永 昭	筑波大学
284	H16.10.19	量子ドットの帯電効果 —もうひとつの近藤効果—	古 崎 昭	理化学研究所
285	H16.11.19	立ち上がる回転ゆで卵の力学	下 村 裕	慶應義塾大学
286	H16.11.10	強相関電子系酸化物ヘテロ構造による室温動作スピントロニクスデバイスの創成	田 中 秀 和	大阪大学産業科学研究所
287	H16.12. 7	金属絶縁体転移研究の進展と超伝導	今 田 正 俊	東京大学物性研究所
288	H17. 1.11	カーボンナノチューブデバイス研究の現状と将来展望	松 本 和 彦	大阪大学産業科学研究所
289	H17. 6. 9	カーボンナノチューブデバイスの基礎と応用	齊藤理一郎	東北大学
290	H17. 6. 2	九州シンクロトン光研究センターにおける放射光発生までの推移	富增多喜夫	九州シンクロトン光研究センター
291	H17. 7.20	シリコン系量子ドットの電子状態制御と機能デバイス応用	宮 崎 誠 一	広島大学大学院先端物質科学研究科
292	H17. 7.22	Tailoring Surface Plasmons through the Morphology and Assembly of Metal Nanoparticles	L. M. Liz-Marzan	University of Vigo
293	H17.10.11	空間に保持した単層カーボンナノチューブ—生成機構とその光物性—	本 間 芳 和	東京理科大学
294	H17.10.20	Quantum Geometry in Condensed Matter Physics	永 長 直 人	東京大学
295	H17.12. 1	多軌道を持つ強相関電子系のモット転移	川 上 則 雄	大阪大学
296	H18. 1.16	フォトニック・フラクタルによる電磁波の局在	本 田 勝 也	信州大学
297	H18. 7. 5	量子細線の接合と量子統計	押 川 正 毅	東京大学物性研究所
298	H18. 7.19	準結晶の金属学	蔡 安 邦	東北大学多元物質科学研究所
299	H18.11. 6	多重接合型シリコン単電子デバイス—フォトン検出と単電子規則転送への展開—	田 部 道 晴	静岡大学
300	H18.11.29	ボース・アインシュタイン凝縮—極微の世界から量子コンピューターまで—	上 田 正 仁	東京工業大学
301	H18.12.20	ダイヤモンド気相合成プロセスの技術革新へのチャレンジ—ダイヤモンド薄膜の気相合成プロセスの現状と課題, そして量産化へ向けて—	高 桑 雄 二	東北大学多元物質科学研究所
302	H18.12.21	「タンパク 3000」とその後	横 山 茂 之	理化学研究所ゲノム科学総合研究センター, 東京大学
303	H19. 1.19	ナノサイエンスとスピエレトロニクス	前 川 禎 道	東北大学金属材料研究所
304	H19. 2. 2	放射線と生命—放射光を用いた生物影響研究—	宇佐美德子	高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所
305	H19. 7. 7	SHG 干渉顕微鏡を用いた強誘電体分域, 特に反転分域構造の非破壊観察	上江洲由晃	早稲田大学
306	H19.10.22	データ同化: シミュレーション科学とデータ科学の交差点	樋 口 知 之	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所
307	H19.12.12	生体高分子の進化能	伏 見 讓	埼玉大学
308	H19.12.14	SILSI 極微細トランジスタにおける信頼性物理の深耕と展望	佐 竹 秀 喜	株式会社 東芝 研究開発センター

回	開催日	題 目	講演者	講演者所属 (当時)
309	H19.12.19	ナノカーボン物質における非平衡現象, 熱輸送, 電界応答, 光吸収	渡 辺 一 之	東京理科大学
310	H20. 2.20	フェムト秒レーザー分光で観た原子波束ダイナミクス	末 元 徹	東京大学物性研究所
311	H20. 3. 3	コバルト酸化物とロジウム酸化物における大きな熱起電力の起源: プリン型バンドによる解釈	黒 木 和 彦	電気通信大学
312	H20. 3.19	回折格子分光の初歩と放射光ビームライン	斎 藤 祐 児	独立行政法人 日本電子力研究開発機構
313	H20. 6. 4	ナノスケールの界面で何がおこるのか?—従来の界面概念の破綻と新しい界面物理概念の必要性—	白 石 賢 二	筑波大学
314	H20.11.17	走査トンネル分光法で見る渦糸物質	西 田 信 彦	東京工業大学
315	H20.11.19	ソフトマターの界面ダイナミクス	土 井 正 男	東京大学
316	H20.12.16	電子状態イメージング STM の開発と高温超伝導体への応用	花 栗 哲 郎	理化学研究所
317	H21. 1.13	超伝導センサを用いたバイオセンシング	円 福 敬 二	九州大学
318	H21. 1.14	グラフェンの物理	安 藤 恒 也	東京工業大学
319	H21. 1.27	ゲノム・合成経路・天然物・医薬品	金 久 實	京都大学化学研究所
320	H21. 3. 6	超伝導エレクトロニクス技術を用いた超高感度 SQUID 磁気センサの応用 —数十ミクロンの金属異物を見つける新技術開発—	田 中 三 郎	豊橋技術科学大学
321	H21. 6.29	超伝導の夢を追って	秋 光 純	青山学院大学
322	H21. 7. 3	確率過程における物性理論的手法のいくつかの応用例について	大久保 潤	東京大学物性研究所
323	H21. 7. 4	テラヘルツ領域におけるプラズモニック結晶とメタマテリアルの光学特性	宮 丸 文 章	信州大学
324	H21.12.15	磁化ダイナミクスによる起電力の発生: 理論と実験	河 野 浩	大阪大学
325	H21.12.22	ラットリングと超電導	廣 井 善 二	東京大学物性研究所
326	H22. 1.13	高温プラズマの乱流輸送シミュレーション	渡 邊 智 彦	核融合科学研究所
327	H22. 1.25	単層カーボンナノチューブの CVD 合成と光学評価	丸 山 茂 夫	東京大学
328	H22. 1.26	いくつになっても脳細胞は作られる!	大 隅 典 子	東北大学